

自主防災 組織の ススメ



みんなのちから

平成7年の阪神・淡路大震災被害によって、生き埋めや建物などに閉じ込められ、救助を要した方は全員専門の救助隊の手によって救助されたのでしょうか。

実は、救助隊に助けられたのはわずか1・7%なのです。約95%の方は、自力脱出や家族、隣人などの手によって救助されています。(日本火災学会調べ)

大地震などの巨大災害が発生すると、公的な防災機関の能力「公助」を一瞬にしてマヒさせる程の被害が発生する可能性が高く、そのような状況が発生した場合、頼りになるのは自分の力「自助」、そして近隣住民があわせた大きな力「共助」であるといえます。

地域のみんなが力をあわせて、災害に立ち向かうことができれば、災害による被害を小さくすることができるといえます。

自主防災組織って？



みんなが災害発生時にだけ力を合わせるよりも、災害の被害を軽減させるためにもっと効果的な方法が「自主防災組織」の結成です。

「自主防災組織」とは地域のみんなが「自分たちの地域は自分たちで守る」という連帯意識をもって、防災訓練や防災勉強会を行う集団です。そして、その活動を「自主防災活動」と言います。

「自主防災組織」の目標は、災害発生時に

○一人でも多くの人の命と安全を守る

○災害の拡大を抑える

○地域住民の混乱を避ける
といったことが挙げられます。これらを目指し、地域のみんなが協力しあい、積極的に参加し、熱心に意見を出しあって組織を活性化させることが災害による被害を軽減させることになるのです。

地域の防災リーダーの育成



組織にはリーダーの存在が欠かせません。あなたの地域に、リーダーにふさわしい方はいませんか？

防災に関心があり、行動力、統率力が強く、人望がある方がリーダーにふさわしい方です。もちろん、リーダーの力だけでは組織づくりは困難です。地域住民みんなが協力し、話し合いながらすすめることが重要です。

自主防災組織の現状



全国的に防災意識が高まっている現在、自主防災組織の結成率は向上しており、組織率は約60%弱に達しています。愛媛県の平均は約30%、お隣の松山市でも同じく約30%、伊予市では約11%です。

松前町はどうでしょうか。消防団の活動は活発ですが、自主防災組織に関しては結成

率はゼロです。残念ながら一つも結成されていません。

組織の結成は簡単なものではないでしょう。しかし、その後の被害の軽減はもちろん、その後の復旧・復興にも大きな差が出てきます。緊急援助物資の効率的な配付にも一役かうでしょう。

また、地域活性化の大きな原動力となる一面も併せ持ちます。

必ず発生する大災害に対して、地域のみんなが力をあわせ、今できることをやりたいと思いませんか？

大災害発生時、かけがえない命を守り、地域を守る主役はあなたなのです。

自分たちのまちは自分たちで守る！

